

第5号様式（第7条関係）

会 議 録

会議の名称	令和6年度第3回清須市地域包括ケアシステム推進委員会
開催日時	令和7年2月21日（金）午後2時から午後3時
開催場所	清洲総合福祉センター つながり広場
議題	<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 令和6年度認知症施策推進事業の取組について（資料1）</p> <p>(2) 令和6年度在宅医療・介護連携推進事業の取組について（資料2）</p> <p>3 その他</p> <p>4 閉会</p>
会議資料	<p>次第</p> <p>別添1 令和6年度清須市地域包括ケアシステム推進委員会委員名簿</p> <p>別添2 清須市地域包括ケアシステム推進委員会設置要綱</p> <p>資料1 令和6年度認知症施策推進事業の取組について</p> <p>資料2 令和6年度在宅医療・介護連携推進事業の取組について</p>
公開・非公開の別 （非公開の場合はその理由）	公開
傍聴人の数 （公開した場合）	0人
出席委員	加藤（裕）委員（委員長）、小関委員（副委員長）、山内委員、加藤（真）委員、鎌田委員、塚崎委員、山口委員、高松委員、堀田委員、中谷委員、中島委員、塚田委員、室田委員、奥山委員
欠席委員	河村委員、櫻井委員
出席者 （オブザーバー）	西名古屋医師会 オブザーバー 愛知県清須保健所 オブザーバー
出席者 事務局	<p>（清須市役所高齢福祉課）</p> <p>石田課長、青山課長補佐、加藤介護予防係長、鈴木主査</p> <p>（清須市社会福祉協議会）</p> <p>清須市地域包括支援センター 谷川管理者、飛永係長</p> <p>中川生活支援コーディネーター</p>

会議の経過

1. 開会

●事務局

皆様、こんにちは。

ただいまから「令和6年度第3回清須市地域包括ケアシステム推進委員会」を始めさせていただきます。私は、本日の進行役を務めさせていただきます、高齢福祉課長の石田です。よろしくお願いいたします。

会議に入る前に、委員の皆様にあらかじめご承知いただく事項として、清須市では附属機関等の会議の公開に関する要綱を定めており、附属機関等の会議及び会議録は原則公開することになっておりますので宜しくお願い致します。

本日は 河村様、櫻井様が都合によりご欠席です。

それでは、次第に沿って会議を進めさせていただきます。

着席して進めさせていただきます。

これより議事に入りますが、議事進行につきましては、設置要綱第5条第3項の規定により委員長が議長になることになっておりますので、議事進行につきましては、加藤委員長に議長をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

◎加藤委員長

議事進行にあたり、本日の会議録署名委員には、山口委員と中島委員を指名させていただきたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

(山口委員、中島委員承諾)

それでは、2議事について(1)令和6年度認知症施策推進事業の取組について事務局から説明をお願いいたします。

2. 議事

●事務局

〔資料に沿って説明〕

◎加藤委員長

ただいまの説明に何か質問・意見があればいただきたいと思います。

○高木オブザーバー

認知症施策として、2市1町から頂いている多職種連携推進負担金の予算で、今年度の3月13日、14日にMOZOの映画館で映画会を開催します。『僕がジョンと呼ばれるまで』というタイトルで、脳トレを続けたことで認知症が改善したというドキュメンタリー風の映画となっております。13日には、映画の監督も舞台挨拶に来ていただけるということ

です。申込み等の詳細は3月号広報をご覧ください、是非お越しくさ
さい。

○中谷委員

(4)②で認知症カフェについてご紹介いただきました。現在清洲の里では月一回、第三火曜日に開催していますが、周辺地域の方との交流は十分ではないと実感しております。施設としては、寿会への声かけや近隣地域に出向くなどの取り組みをしています。

どんどん敷居を低くして、お気軽に来ていただけるようにしていきたいと思っております。是非こういう場があるということ認識していただいて、活用していただければありがたいと思っております。

もう一点、(3)①認知症高齢者等の事前登録について、周辺自治体との連携は行われていますか。

●事務局

現在、警察および地域包括支援センターとは情報の共有をしておりますが、他自治体との連携は行っておりません。

○中谷委員

昨年、清洲の里に認知症高齢者が迷い込まれたことがありました。清須市に問い合わせましたが登録がなかったため、警察に対応を依頼しました。稲沢市から来られた方とのことでした。

周辺地域で情報の交換がされていれば、スムーズに対応できたのかなと思いました。

◎加藤委員長

認知症については、もう少し幅広く対応を行えば良いかと思えます。ただ、現状警察や地域包括支援センターとの情報共有は出来ているのであれば、認知症高齢者については警察等へ連絡をとるのが一番早いと考えてもよろしいでしょうか。

○高松委員

ケースバイケースではあるのですが、通報していただいて警察が対応するのが一番いいと思います。

◎加藤委員長

警察の生活安全課に問い合わせをすればよいのでしょうか。

○高松委員

110番で一番に連絡が行くのは交番などの地域課になります。その

場で連絡先がわかるような状況であれば、ご家族の方や親族の方に引き渡しをしたり、お怪我をされていれば救急車を要請したりなどの対応を行います。連絡先がわからないようであれば、生活安全課にお連れして必要な調査を行います。その際に市町と情報交換をしながら支度するという流れになっています。

◎加藤委員長

わからない事があれば110番でいいということでしょうか。

○高松委員

110番は警察官が現地に伺う必要があることを前提とした番号になりますので、それを踏まえた上で通報して頂ければと思います。

○山口委員

成年後見センターの相談件数が非常に多くあがっているという印象を受けます。昨年度の開設当初も同じ程度の件数があったのか伺いたいです。また、相談内容の傾向についてもわかるようであれば教えてください。

●事務局

件数については、現在手元に数字を持ち合わせておりませんが、昨年と同程度かそれ以上あると認識しています。傾向については、成年後見制度の説明や、頼りになるご親族の方がいなくてどうしたらいいのかというご相談、成年後見制度が必要な方の周りの方からの相談などです。

一人の方について何回も相談を重ねていることもあり、かなり件数が多くなっています。

○高松委員

認知症の関係とは少し違うかもしれませんが、全国的に特殊詐欺の多発傾向が続いています。西枇杷島警察署管内では昨年30件を超え、前年比で30%以上増えています。被害額についても、昨年は約1億に上っています。その被害の大部分が高齢の方に偏っています。

特殊詐欺の手口自体が、マンパワー頼みの一方通行の情報発信では啓発が追いつかない状況になっています。最近では不特定の方に向けての情報発信ではなく、高齢者の方が集まる場所に直接署員が出向いて具体的な対策をお願いしています。今後、寿会や地区のサロンでも順次開催できればと考えています。そういったものを検討いただいて、開催が可能であれば、防犯を担当する生活安全第一係にご連絡頂ければありがたく思います。

◎加藤委員長

ありがとうございました。

塚崎委員、町の薬局として認知症の方に関わる機会が多いかと思いますが、薬剤師会としてなにか取り組んでおられることはございますか。

○塚崎委員

薬剤師会全体としての動きはあまりとれていませんが、一薬局として、一見して認知症の疑いがある方が来られた時は、家族の方に医者にかかってもらうようお話をすることはあります。独居の方の場合は、繋がりのあるケアマネジャーの方に連絡します。

今後薬剤師会としても、そういった横の繋がりが出来ていけばいいと思っています。

◎加藤委員長

ありがとうございました。

それでは、続いて(2) 令和6年度在宅医療・介護連携推進事業の取組について、説明をお願いします。

●事務局

[資料に沿って説明]

◎加藤委員長

ただいまの説明に何か質問・意見があればいただきたいと思います。

○塚田委員

今回、支援1、2の方の重度化率について記載がありました。それに加えて、資料1(4)①早期発見、早期対応の整備で相談件数が1割増、うち認知症関連の相談が4割以上増加しているとの記載がありました。

今日のお話では早期発見、早期対応、重度化予防に注力しておられると思うのですが、現状清須市内ではここ数年で通所介護事業所や居宅介護支援事業所等の閉鎖が増えていきます。実際のサービスにあたる事業所が困窮している中で、清須市独自での対策を何か検討されていますか。

●事務局

現在、独自での施策は考えておりません。事業所の経営が難しいという話は各方面から伺っていますので、今後計画策定に向けて検討していきたいと考えています。

◎加藤委員長

具体的に清須市内でどれくらいの事業所が閉鎖しているか把握してい

ますか。

●事務局

正確な数字はただ今持ち合わせておりませんが、全体として事業所が減っている状況は把握しています。

◎加藤委員長

先ほど低栄養対策の話も出ていましたが、なかなか高齢者の方は自分が置かれている環境が健康維持にふさわしいかどうか確認するのが難しいと思います。人が介入できる施策があればいいと思いますが、予算的に難しい所だと思います。

小関委員、資料2の2(2)で在宅医科医療普及研修会があったと資料にありましたが、何か補足説明はありますか。

○小関委員

1月23日に済衆館病院で摂食嚥下についての講演会がありました。

西春日井歯科医師会での一つの取り組みとして、摂食嚥下について多職種での連携をとるという試みがあります。済衆館病院に摂食嚥下のチームがありますが、かなり高度な摂食嚥下の対策を行っております。加齢に限らず様々な原因で飲み込みにくくなる方はいらっしゃいますが、そういった方々のかなり良い回復程度を教えていただいた講演会になりました。

摂食嚥下は対応をしている医師としていない医師がおります。小児歯科専門の医師はあまり摂食嚥下の対応はしないでしょうし、入れ歯専門の医師でやらない方もいらっしゃいます。そういった中で、西春日井歯科医師会の窓口が割り振りをしておりますので、必要な方がいらっしゃいましたらご連絡ください。

早期発見について、各歯科医院でできることと病院でできることは違いがあります。一開業医では直接指導はなかなか出来ません。指導の前の検査一つにしてもリスクがありますので、そこをフォローできる医師かどうかが問題になります。そういった面も含めて、相談して頂ければ対応致します。

◎加藤委員長

健康は歯の健康からとよく歯科の先生はおっしゃられていますが、オーラルフレイルの予防という意味でも、頑張っていたきたいと思います。

先回の委員会で救急キットや施錠時の救急対応が未回答のままになっていたと思いますが、堀田委員いかがですか。

○堀田委員

第一回の委員会ではっきりした回答ができなかった点がございましたので、その報告です。

救急医療情報キットを実際に活用した状況について、正式な統計等とはしていませんが、前任の消防課長が実際に使用した際の状況を収集した報告があります。

それによると令和5年、令和6年で3件の情報が入っています。その中で実際に現場に行った者に聴取したところ、独居の方が比較的多いとの事です。すでにお亡くなりになられていた件が多く、救急の搬送に有用であったとは聞いていませんが、ご家族とご連絡がとれたという事は聞いています。

こうしたキットの情報は有効な手段の一つだと思っておりますので、今後も消防にとって重要になってくるかと思えます。

玄関等の破壊についてですが、119番通報を受けても患者さんに接触出来ない場合、緊急的に玄関や窓ガラスを破壊した事案はありました。破壊するケースは、関係者のいない独居の方が多いです。

○山内委員

成年後見支援センターの相談延べ件数が増加しているということで、センター機能の重要性を感じています。多職種連携に関連して、12月16日に成年後見制度利用促進セミナーを開催しました。成年後見制度に繋ぐ関係機関との連携についてというテーマで、57名の方が参加されました。今後も連携を密にとりやすい関係作りを進めていきますので、よろしくをお願いします。

○渡邊オブザーバー

この事業の最終目標は何でしょうか。例えば認知症基本法について、基本理念と基本的施策を全て行うと力が分散されてしまうかと思えます。選択した理念に集中して人、物、金を投下し、成功事例を作っていくことが大事なのではないかと思えます。

目標の設定について、仕組みをつくりさえすればいいのか、現場で物事が動くかどうかで評価するのが重要ではないかと思いました。認知症でいえば登録者が増えたかどうかではなく、現場で有効に活用されたかどうか評価点になるのではないのでしょうか。

昨今、情報が非常に早く手に入り、また一括管理をしようという動きがあります。情報化が進めば、数年後には医療介護連携からこの病院にかかった方が何ヶ月くらいで在宅に入って、そこから離脱して介護になっていくかのプロセスが予測できるようになるのではないかと思います。そういった情報を集めることで、手を入れるべきプロセスがわかるようになる仕組みが出来るのではないかと感じています。

まとめますと、一つは、評価の指標を現場レベルに落としこむ必要がある。もう一つは情報の活用が今後どうなっていくか考える必要がある。その2点を非常に強く感じました。

あとは、生成AIの進歩が著しいので、資料作りなどに利用してみるといいのではないかと思います。

●事務局

市としては計画に沿って施策を行っていくことになります。現在第9期計画の中で評価指標を決定して進めている所ではありますが、数字を実現するだけでなく、市民の皆様に対して仕組みが有効に作用しているかの視点が重要であると改めて感じました。次回の計画を作成する際には、そうした視点もとりこめると良いと思っています。

◎加藤委員長

愛知県の保健所という視点から、認知症施策推進の成功事例をご存じでしたらお伺いしたいです。

○渡邊オブザーバー

私は予防が重要だと思っているので、予防に関して最先端の状況について調べたところ、老化防止には血清中の4つの分子が決め手だというのが2年ほど前にネイチャー・エイジングに出ていました。

また、愛知県は認知症の研究が進んでいて、国立長寿医療研究センターの荒井秀典先生が全国の市町の協力を得て事業を進めているので、興味があれば連絡してみてもはどうでしょうか。

◎加藤委員長

ありがとうございました。他にご意見ご質問はございますか。

それでは、3その他になりますが事務局から連絡事項をお願いします。

●事務局

今年度予定していました3回目の委員会も無事開催することができました。委員改選にてこの委員での会は最後となります。

来年度も各団体様を通じて委員推薦を予定しておりますので本市の地域包括ケアシステムの推進の御協力いただきたいと思います。宜しくお願ひ致します。

4. 閉会

◎加藤委員長

それでは、議題も全て終了しました。本日は、円滑な進行にご協力頂

き、2年に渡り委員の皆さんからの様々なご意見をいただき、ありがとうございました。それでは、マイクを事務局にお返しします。

●事務局

本日は、貴重なご意見をありがとうございました。これをもちまして、令和6年度第3回清須市地域包括ケアシステム推進委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

会議の結果	会議の経過に示したとおり
-------	--------------

会議の経過を記載して、その相違のないことを証するためにここに署名する。

署名委員 山口 梨恵

署名委員 中島 今日子